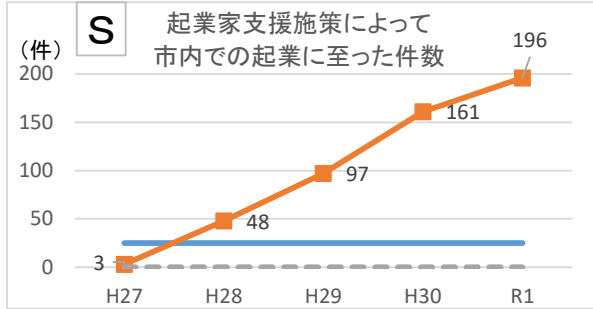


小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るKPIの推移

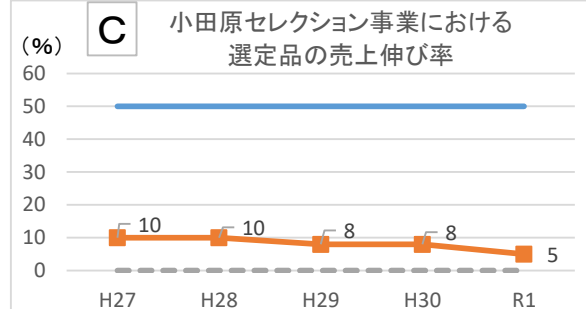
『①安定した雇用を創出する』

①-1-1



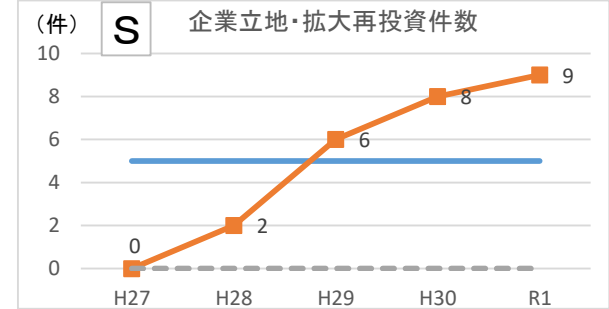
起業スクールの開始により起業者が増加した。

①-1-2



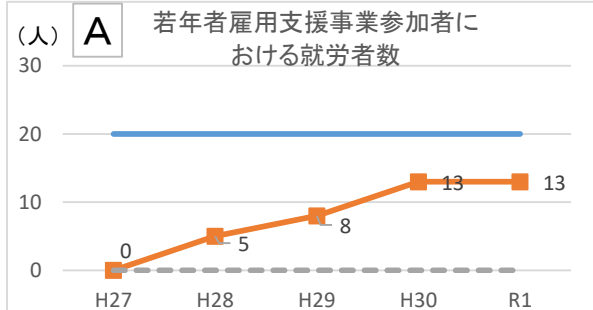
認定後、販路拡大に成功し、売上を伸ばした商品がある一方、原材料不足等による値上げや廃番になった商品もあり、数値が伸びていない。

①-2-1



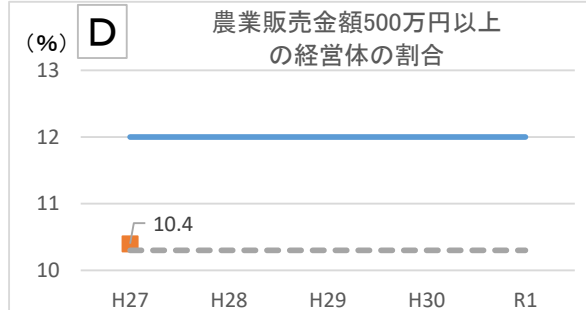
既存工場の撤退に伴い立地可能な工業用地が増えたため、件数が増加している。

①-2-2



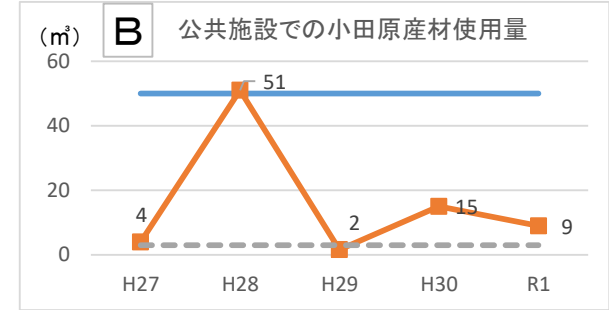
昨今の売り手市場の中、求人企業訪問ツアーの参加者数が見込みより少なかった。目標の達成に向け数値は増加している。

①-3-1



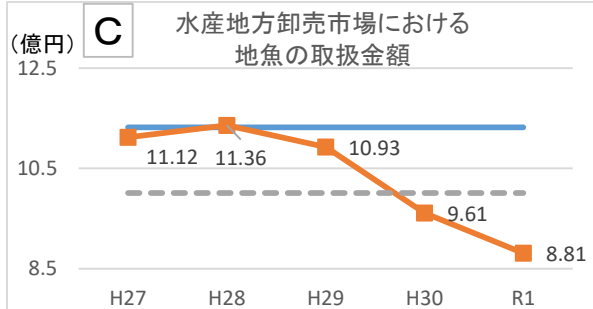
2015農林業センサスからの引用数値。今後2020農林業センサスを基に要因等を検討していく。毎年度の評価ができない数値であった。

①-3-2



市内公共施設の内装木質化等、建築事業において地域産木材の使用を進めた年は、基準値を上回る使用量となった。今後も小学校を中心に公共施設における内装木質化を進め、地域産木材を使用していく。

①-3-3



様々な取組により「小田原の魚」の魅力を向上・発信してきたが、H29～R1年度の不漁により指標は減少している。今後は交流促進施設を活用した魅力発信を行い数値を伸ばして行く。

【評価項目について】

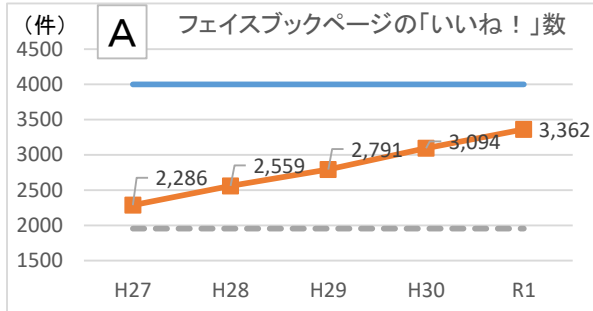
- S：目標を達成した
- A：目標達成に向け順調に推移した
- B：数値に変化が見られなかった
- C：目標達成が困難であった
- D：評価不可能数値

	全体	
S	8	32%
A	5	20%
B	3	12%
C	5	20%
D	4	16%
計	25	100%

小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るKPIの推移

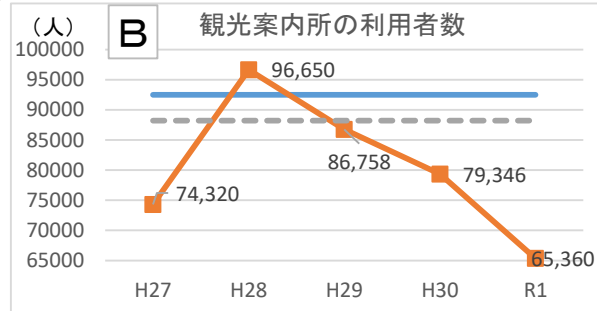
『②魅力を発信し、人の流れをつくる』

②-1-1



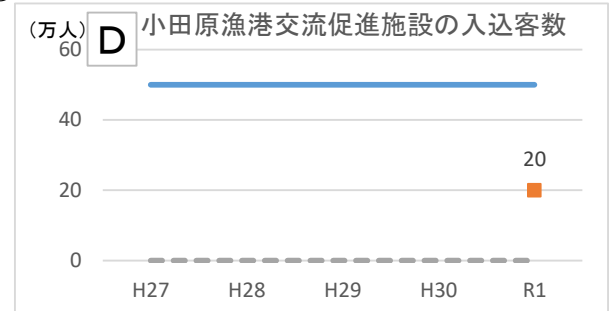
小田原の魅力的な地域資源や多様性のあるライフスタイルを発信し、「いいね!」数を順調に伸ばしてきたが目標達成には至らなかった。ただし、SNSの情報発信としてはInstagramのフォロワー数が8,800を超え一定の成果を挙げつつある。

②-2-1



小田原城天守閣のリニューアルによりH28年度は大きく実績値を上げて目標値を達成したが、翌年度から減少に推移した。ただ、入り込み客数は増えていることから、SNS等、情報を得る方法の変化があり、観光案内所を利用しない場合が増加していると考察する。

②-2-2

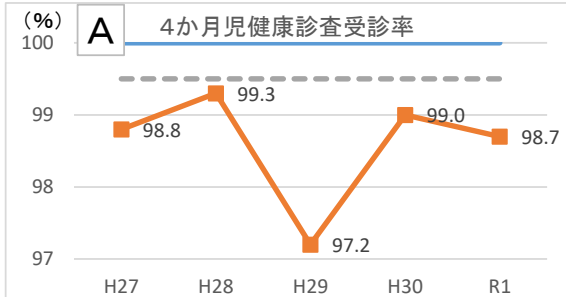


令和元年11月開業のため年間の数値が把握できず評価不可能であるが、引き続きリピーターが増加するよう、観光客のニーズの把握に努めていく。

小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るKPIの推移

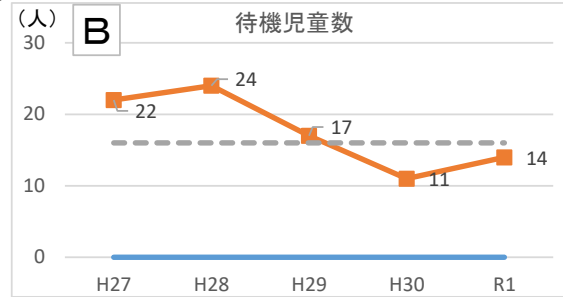
『③子どもを産み育てやすい環境をつくる』

③-1-1



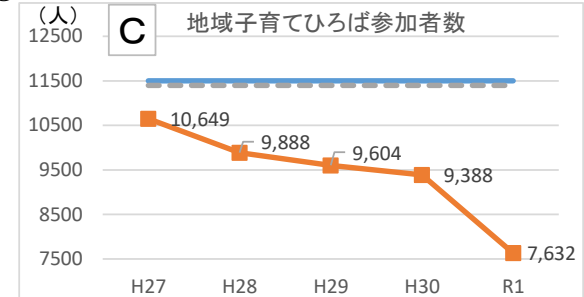
出生時に未熟児や低体重出生児で入院する子の多さにより、受診率が変化していると考える。

③-2-1



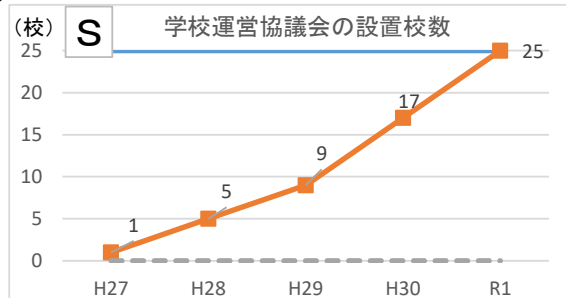
6年間で555人分の受け皿を確保し、数値は好転した。令和2年3月に改定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、引き続き、待機児童対策を推進してまいりたい。

③-2-2



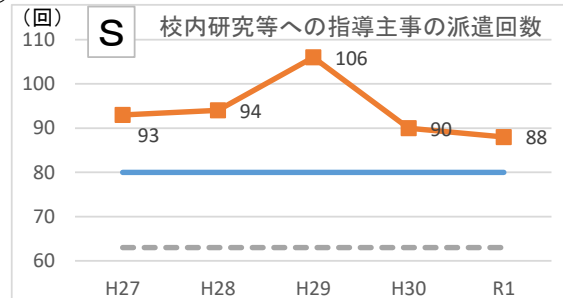
市域全体の子供数の減少や、保護者の職場復帰の早期化など、本事業が開催される平日の参加が難しい親子が増加していることが、数値減少の主な要因と推測。※R1は新型コロナウイルスの影響により活動日数減少

③-3-1



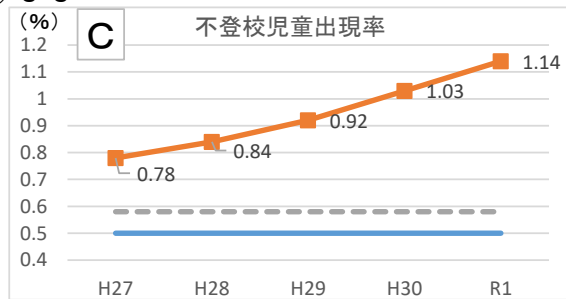
H27年度から設置を開始し、令和元年度に小学校全25校に設置が完了した。今後は中学校においても、学校運営協議会の設置について、検討を進めていく。

③-3-2

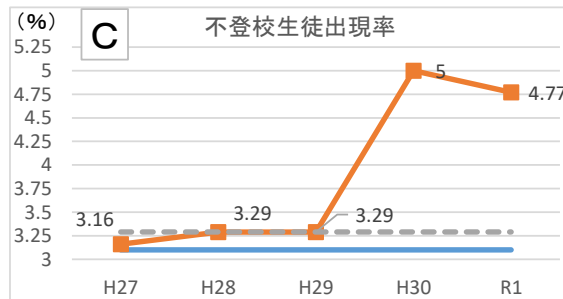


多少の増減はあるものの概ね学校のニーズに応じた派遣を行い、目標値を超えることができた。

③-3-3



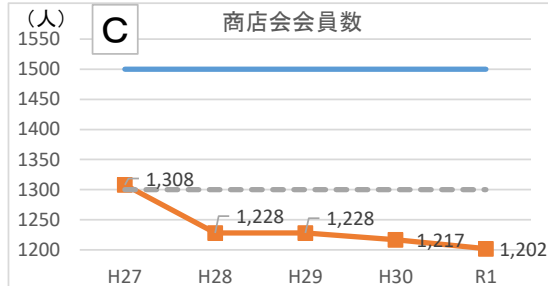
休みがちな児童生徒に対しての早期対応や関係機関との連携支援により、不登校の状態が改善している児童生徒がいる一方で、新規不登校者がいるため、不登校者が増加している学年もある。児童生徒及び保護者に対する教育相談の実施、教育相談指導学級やおだわら子ども若者教育支援センター等学校以外の場での支援環境の充実などによって、深い児童生徒理解に基づいた日々のケアや保護者へのサポートを充実させていく。



小田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の推移

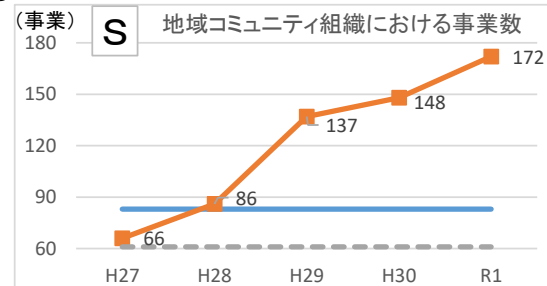
『④活力にあふれ、住み続けたくなるまちをつくる』

④-1-1



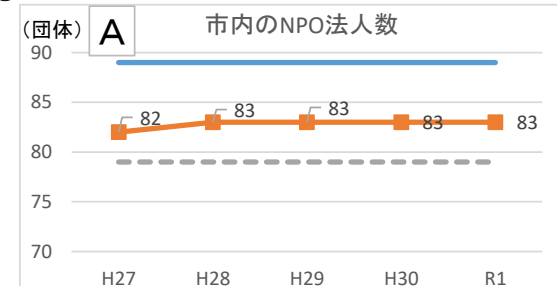
後継者不足、消費スタイルの多様化、郊外立地型大型店との競争など、様々な問題から減少が進んできたと考えられる。

④-2-1



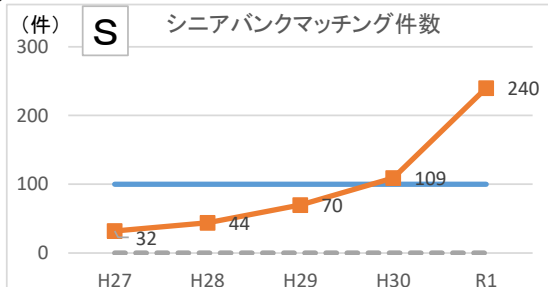
各地域コミュニティ組織内の分科会で、防犯パトロールや生活応援隊、防災啓発などを実施し、地域内の課題に積極的に取り組んだことで、数値が増加した。

④-2-2



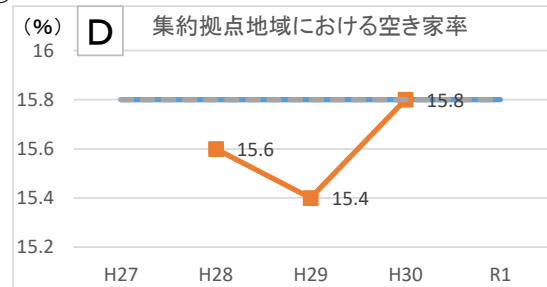
平成28年度以降横ばいだが、全国的に同様の傾向だと思われる。NPO法人認証制度の開始から約20年が経過し、市民活動団体のニーズが一定程度満たされたものと推察する。

④-2-3



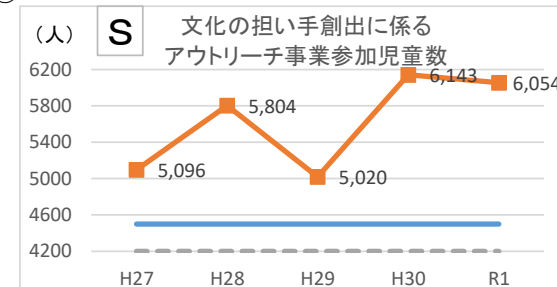
様々な機会を捉えてバンク登録の推進に努めてきた結果、事業開始から毎年マッチング件数を積み上げ、目標値を達成することができた。

④-3-1



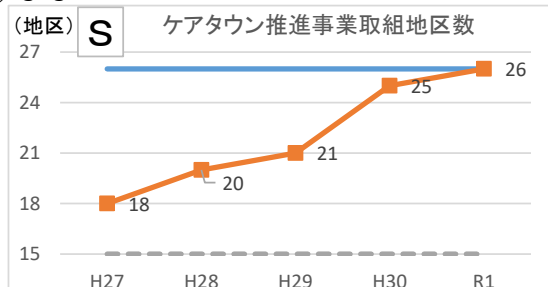
令和元年度実績は現在集計中であるが、ほぼ横ばいの状況であると推測される。立地適正化計画の策定など、集約拠点周辺への居住の誘導に取り組んでいるが、全市的な人口減少の影響がでている。

④-3-2



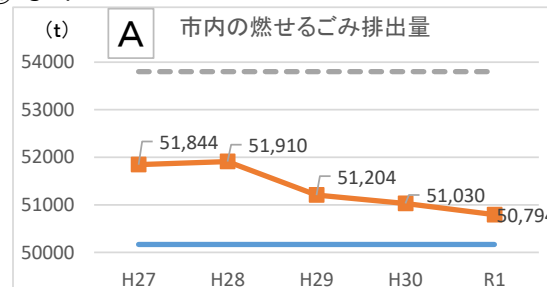
アウトリーチ事業は現在ほぼ全部の小学校で実施しており、実施箇所数としては頭打ちである。今後実績値が大きく変動する見込みはない。

④-3-3



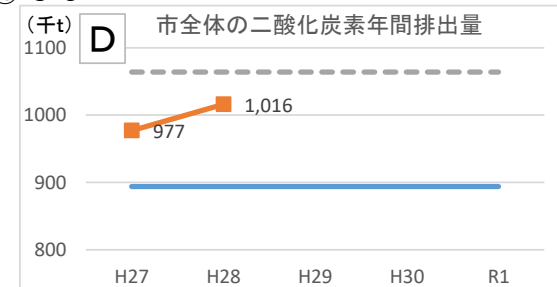
まちづくり委員会をはじめとした地縁団体に、ケアタウン構想の趣旨や必要性を伝え、取組を進めてきた結果、取組地区数を増加することができ、目標を達成することができた。

④-3-4



段ボールコンポストによる生ごみ堆肥化や分別徹底の周知・啓発などを推進してきた結果、基準年度から約3,000t減量することができた。

④-3-5



平成28年度の実績値が比倍増加した主な要因は、産業部門の製造業において化学製品の製品出荷額が増加したことによると想定される。基準年度に比べると、全体的には減少傾向にあると言える。※データ取得は約2年遅れとなる